教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 教育学科　　資格： 准教授　　氏名： 井谷　信彦

研究分野	研究内容のキーワード
臨床教育学，教育人間学，教育哲学	エネルギーの教育思想史、即興型の学習／教授，ボルノウの教育思想
学位	最終学歴
博士（教育学）	京都大学大学院 教育学研究科 臨床教育学専攻 博士課程 満期退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.LINEオープンチャットを用いた遠隔授業	2020年4月～現在	「教育原理」などの授業においてCOVID-19感染予防のためLINEオープンチャットを用いた遠隔同時双方向型授業を実施。チャット、音声、画像などを活用することで、通信量を低く抑えながら、リアルタイムで講義を進める。また、「ノート」や「投票」機能を用いることにより、受講者同士や受講者－講師の交流を毎回取り入れた授業をおこなう。受講者は事前に配布された資料などを見ながら音声を聞き、「ノート」や「投票」で課題に取り組み、他の受講者にフィードバックをしながら学修を進める。
2.即興演劇や音楽の手法を取り入れた体験型授業	2013年04月～現在	「教育原理／教育原論」「教職実践演習」「教育演習」「学び発見ゼミ」「初期演習」など多くの授業で、即興演劇や音楽に用いられている手法を取り入れた実践をおこなう。役者や音楽家のトレーニングにも用いられているワークやゲームを実施することで、受講者の学び／遊びに取り組む姿勢や、対人関係スキル、自己理解／他者理解などを育むことを目的とする。活動の実施後には省察の機会を設けることによって、受講者一人ひとりが自己の体験を振り返り、自分なりの学びを深めていくための機序とする。
3.各種「ゼミノート」を用いた省察型授業	2013年04月～現在	「教職実践演習」「教育演習」「学び発見ゼミ」などの授業において、受講者が授業内容を振り返って書きとめるためのノートを配布、各回の授業後に記入・提出を求める。ノートには授業中に体験したこと、感じたこと、考えたこと、発見したこと、疑問に思ったことなどを書きとめる欄が設けられている。授業のなかで何を体験したのか、ここから何を学べるのか、実践にどう活かせるのかを整理することで、受講者一人ひとりが省察をとおして学びを深める機会とする。
2 作成した教科書、教材		
1.「教育演習」即興×教育・保育ゼミノート	2016年04月	「教育演習」の受講者が授業内容を振り返って書きとめるためのノート。ノートには授業中に体験したこと、感じたこと、考えたこと、発見したこと、疑問に思ったことなどを書きとめる欄が設けられている。授業のなかで何を体験したのか、ここから何を学べるのか、自己の実践にどう活かせるのかを整理することで、受講者一人ひとりが省察をとおして学びを深める機会とする。
2.「学び発見ゼミ」学び発見ゼミノート	2013年09月	「学び発見ゼミ」の受講者が授業内容を振り返って書きとめるためのノート。ノートには授業中に体験したこと、感じたこと、考えたこと、発見したこと、疑問に思ったことなどを書きとめる欄が設けられている。授業のなかで何を体験したのか、ここから何を学べるのか、日常生活にどう活かせるのかを整理することで、受講者一人ひとりが省察をとおして学びを深める機会とする。
3.「教職実践演習（小）」探求ノート	2013年04月	「教職実践演習」の受講者が授業内容を振り返って書きとめるためのノート。ノートには授業中に体験したこと、感じたこと、考えたこと、発見したこと、疑問に思ったことなどを書きとめる欄が設けられている。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
		授業のなかで何を体験したのか、ここから何を学べるのか、自己の実践にどう活かせるのかを整理することで、受講者一人ひとりが省察をとおして学びを深める機会とする。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.授業外のワークショップの実施	2013年04月～現在	主に教育に関心のある本学の学生向けに、授業外のワークショップを、複数実施してきた。内容は、授業運営や学級運営、附属幼稚園の保護者との交流など。体験をとおして学ぶことを趣旨とするワークショップは、学生からも保護者からも高い評価を得ている。
4 その他		
1.授業外における学生支援	2011年04月～現在	クラス担任、ゼミ担当、留学引率者などとして、多くの学生の支援・指導にあたってきた。またこのほかにも、勉学、家庭環境、友人関係、進路選択、学生生活、遠隔授業の受講などに困難を抱える学生を、多く支援してきた。加えて、附属高校生向けの授業をおこなうなど、多方面の学生・生徒支援に尽力してきた。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.高等学校教諭第一種免許	2003年03月	国語科
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.地域貢献・社会連携に関する事項	2011年04月～現在	教育関係者、一般社会人、大学生向けのワークショップを多数主催。また、教員免許状更新講習講師、西宮市教育委員会主催の教員研修講師、同市の教科書選定委員会委員などを務めてきた。加えて、大学と教育委員会との連携の企画・運営、NPO法人との協働による講座の実施、高校生向けの出前授業などにも携わってきた。
2.大学運営に関する事項	2011年04月～現在	全学共通教育委員、動物実験委員、地域連携委員、学科入試委員、MFWIおよびSMU留学引率、学科FD担当、大学院教育学専攻倫理審査委員長、同紀要編集副委員長、同広報担当、オープンキャンパス担当、入学試験監督、および教育懇談会への出席などをとおして、大学の運営に貢献してきた。
4 その他		
1.教育哲学会第1回奨励賞	2015年10月	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.教育哲学事典	共	2023年7月	丸善出版	教育哲学の重要語句に解説を加えた事典。担当は①「贈与と交換」、②「存在論と教育」、③「ボルノウ」の三項。①は、モース、バタイユ、デリダらの理論・思想にもとづいて贈与／交換という現象の意味を明らかにしたうえで、矢野智司による「贈与と交換の教育学」の意義と射程を解説。②はハイデガーの存在論を概説したうえで、バラウフを嚆矢とする存在論的教育学の要点と、これが陥りがちな問題点を解説。③はドイツの教育学者ボルノウの教育思想を、特にその方法原理と、実存主義、希望の哲学、言語による認識、直観への教育といった主要概念に注目しながら、意義と課題もあわせて解説。
2.教育の世界が開かれるとき	共	2022年3月	世織書房	人間と教育をめぐる問いと思索のさなかに、教育の世界の新たな風景と奥行きが開かれてくる現場を探る、臨床教育学と教育人間学の到達点＝新たな出発点を記した論集。担当は第6章「詩作者の知としての予感のパラドックス：ボルノウ晩年の自然論にみる「解釈学の射程外」の問題」。現代ドイツの教育学者ボルノウの晩年の自然論および詩歌論を読み解くことにより、詩歌によって喚起される知に

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				関する彼の思想の消息を明らかにした。（矢野智司・井谷信彦編）
3.保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典	共	2021年6月	ミネルヴァ書房	保育・幼児教育・児童福祉に関する事項・人名辞典。担当項目は「ボルノウ」（単著）p. 261。人間が生きることに関わる様々な現象の意味を明らかにすることで、人間の本質と教育の役割を問いなおした、ボルノウの教育人間学の特徴を概説。教育を支える希望、信頼、被護性などの役割や、成熟の契機としての危機、出会い、覚醒などの意義を説いた、ボルノウの思想の特徴と意義について解説。（中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤嘉余子・立花直樹編）
4.教育学のパトス論的転回	共	2021年5月	東京大学出版会	理性・言語・論理などを意味する「ロゴス」が重視されてきた従来の教育／教育学にたいして、受苦・情念・受動性などを意味する「パトス」の側からこれを問いすことで、ロゴスとパトスのあいだの「転回」の現場を見定めることを課題とする論集。担当は第4章「パトスをめぐる啓蒙と野蛮の反転交錯：アドルノによるボルノウ批判の再検証」（単著）pp.233-290。ボルノウの「希望の哲学」にたいするアドルノの批判の当否と意義を、ハイデガーの「本来性の思想」と両者の関係を参照軸として問いなおし、パトスの人間形成論の構想に向けた「パトロジカルな知」の重要性を明らかにした。（岡部美香・小野文生編）
5.小学校教育用語辞典	共	2021年5月	ミネルヴァ書房	小学校教育に関する事項・人名辞典。担当項目は「ボルノウ」（単著）p.16および「教育的タクト」（単著）pp.9-10。前者は、人間が生きることに関わる様々な現象の意味を明らかにすることで、人間の本質と教育の役割を問いなおした、ボルノウの教育人間学の特徴を概説。後者は、元来音楽の「拍子」や人間関係における心遣いとして理解されており、ヘルバルトによって教育の「理論と実践の媒介項」として規定された、「タクト」の意味を解説。（細尾萌子・柏木智子編集代表）
6.ワークで学ぶ教育学　増補改訂版	共	2020年04月	ナカニシヤ出版	読者が主体となって取り組めるワークを多く取り入れた教科書。主に教育原理などの授業で用いることを想定。担当は第15章「なぜ勉強しなくちゃいけないの？　子どもの問いに向きあうために」（単著）pp.188-200および第20章「ディスカッション　テーマ集」（単著）pp.255-267。前者は、学ぶことの意義に疑問を抱く子どもに、共感しながら向きあうための作法を説き明かしたもの。後者は、本書の内容を振り返って整理しながら、教育の本質に関わるディスカッションのテーマを示したもの。（尾崎博美、井藤元、井谷信彦ほか著）
7.ワークで学ぶ道徳教育　増補改訂版		2020年03月	ナカニシヤ出版	読者が主体となって取り組めるワークを多く取り入れた教科書。主に道徳教育関連の授業で用いることを想定。担当は、第11章「ダメ！といわれるとやりたくなる？　「悪いこと」と子どもの人格形成」（単著）pp.140-154。映画や絵本を題材としながら、子どもたちが「悪いこと」に惹かれる理由や、悪の体験と人格形成の関係を概説。これにより、単に「悪いこと」を懲らしめ「善いこと」を勧めるだけに留まらない、道徳性の育成に携わる教師の複雑かつ重要な役割を明らかにした。（井藤元、尾崎博美、井谷信彦ほか著）
8.教育原論	共	2020年01月	ミネルヴァ書房	大学教職課程向けの教科書。主に教育原理などの授業で用いることを想定。担当は第9章「監獄としての学校　「主体性の育成」を問い直す」（単著）pp. 149-163。フランスの思想家ミシェル・フーコーの規律・訓練論を基礎として、学校と監獄のあいだに見られる類似性を複数の観点から明らかにしたうえで、現代の学校教育に孕まれている規律・訓練型の権力の弊害と、この権力による支配からの脱却の指針を説き明かした。（山内清郎、原清治、春日井敏行、井谷信彦ほか著）
9.ワークで学ぶ学校カウンセリング	共	2019年07月	ナカニシヤ出版	読者が主体となって取り組めるワークを多く取り入れた教科書。主に教育相談などの授業で用いることを想定。担当は第2章「独りきりでは独り立ちできない？　「大人になること」を支えるモノと人々」（単著）pp. 19-32。映画『魔女の宅急便』を手がかりに、人生の節目の儀式としての通過儀礼、子どもの自立を支える移行対象、自立と依存の関係、人材として人間観と人格としての人間観、行為の価値と存在の意味などについて解説。（竹尾和子、井藤元、井谷信彦ほか著）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
10.ワークで学ぶ教育課程論	共	2018年04月	ナカニシヤ出版	読者が主体となって取り組めるワークを多く取り入れた教科書。主に教職課程などの授業で用いることを想定。担当は、第18章「遊びで満たされた学びの舞台　主体性の育成とパフォーマティブな学び」（単著）pp.243-255。学習指導要領などに示された「主体性」という理念の内実を明らかにしたうえで、主体性の育成に関わる教育のパフォーマティブな特徴を解説。即興演劇の知を活かしたワークをとおして、主体性の育成にとって欠くことのできない、play（遊び／演技）の要素の意義を提示。（尾崎博美、井藤元、井谷信彦ほか著）
11.いまがわかる教育原理	共	2018年03月	株式会社みらい	教師・保育士をめざす大学生のための教科書。主に教育原理などの授業で使用することを想定。担当は、第1章「教育の意義　ヒトは教育によって人間になる」（単著）pp.14-25。いわゆる「オオカミに育てられた少女」のエピソードを題材に、「人間になること」と教育との関係を概説。さらに、「人間らしさ」を定義することの難しさにも触れ、人間の本質をめぐる「開かれた問い」の重要性を提示。個人と社会という2つの視点を示したうえで、教育をめぐる思索への導入をおこなった。（井谷信彦、猪熊弘子、西本望ほか著）
12.臨床教育学	共	2017年10月	協同出版	人間／動物、芸術体験、パトスの知など、多様なテーマに照らして、創設から30年を迎える臨床教育学の、到達点と課題を明らかにした論集。担当は、第5章「教師のタクトと即興演劇の知　機知と機転の臨床教育学序説」（単著）pp.113-138。J．F．ヘルバルトからM．ヴァン＝マーネンまでの、教師の即興の技量としてのタクトに関する理論と、現代のK．ソーヤーやL．ホルツマンに見られる、即興演劇の知の活用に関する理論を検証。両者から導かれる教師のタクトの特徴と育成方法を提示。（矢野智司、西平直、井谷信彦ほか著）
13.教育思想事典　増補改訂版	共	2017年09月	勁草書房	古代から現代までの教育思想に関する事項・人名事典。2000年に出版された初版の増補改訂版。担当は、「ハイデガー」の項（単著）pp.617-618。ドイツの哲学者M．ハイデガーの経歴や、存在者の存在をめぐる思想の変遷を概説。さらに、ハイデガー哲学から影響を受けた教育思想の特徴を、O．F．ボルノウとTh．バラウフの二人を代表例として解説。（松浦良充、江口潔、井谷信彦ほか著）
14.ワークで学ぶ教職概論	共	2017年04月	ナカニシヤ出版	読者が主体となって取り組めるワークを多く取り入れた教科書。主に教職概論などの授業で用いることを想定。担当は、第11章「想定外の出来事にも準備はできる？　教師の即興の技量としてのタクト」（単著）pp．142-154。J．F．ヘルバルトからM．ヴァン＝マーネンまで、教師の即興の技量の特徴と育成方法に関する理論を概説。教育をめぐる理論に深く精通すること、教育実践の経験を積み重ねること、この経験の意味を探求することを、教師のタクトを養うための方法として提示。（尾崎博美、井藤元、井谷信彦ほか著）
15.災害と厄災の記憶を伝える　教育学は何ができるのか	共	2017年01月	勁草書房	教育関係者や災害対策の専門家による、厄災の記憶と伝承をめぐる論集。担当は、第九章「問いの螺旋へ　東日本大震災と教育哲学者の語りの作法」（単著）pp.258-283。O．F．ボルノウとM．ハイデガーによる著作を導きとして、東日本大震災によって深刻な被害を蒙り、日常生活を支える様々な境界と根拠が失われた現代社会にあって、教育哲学者が取りうる語りの作法を提唱。希望、被護性、技術、放下などをめぐる両者の議論が、重大な矛盾や自家撞着を孕んでいることを明らかにしたうえで、唯一絶対の「答え」ではなく終わりなき「問い」を喚起するような、哲学者に固有の語りの特徴と意義を提示。※井谷信彦（2013）「問いの螺旋へ　教育哲学者の語りの作法」『教育哲学研究』第108号の加筆・修正版。（山名淳、矢野智司、井谷信彦ほか著）
16.ワークで学ぶ道徳教育	共	2016年03月	ナカニシヤ出版	読者が主体となって取り組めるワークを多く取り入れた教科書。主に道徳教育関連の授業で用いることを想定。担当は、第11章「ダメ！といわれるとやりたくなる？　「悪いこと」と子どもの人格形成」（単著）pp.140-154。映画や絵本を題材としながら、子どもたちが「悪いこと」に惹かれる理由や、悪の体験と人格形成の関係を概説。これにより、単に「悪いこと」を懲らしめ「善いこと」を勧めるだけに留まらない、道徳性の育成に携わる教師の複雑かつ重要

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
17.ワークで学ぶ教育学	共	2015年04月	ナカニシヤ出版	な役割を明らかにした。（井藤元、尾崎博美、井谷信彦ほか著） 読者が主体となって取り組めるワークを多く取り入れた教科書。主に教育原理などの授業で用いることを想定。担当は第14章「なぜ勉強しなくちゃいけないの？　子どもの問いに向きあうために」（単著）pp.175-187および第19章「ディスカッション　テーマ集」（単著）pp.242-254。前者は、学ぶことの意義に疑問を抱く子どもに、共感しながら向きあうための作法を説き明かしたもの。後者は、本書の内容を振り返って整理しながら、教育の本質に関わるディスカッションのテーマを示したもの。（尾崎博美、井藤元、井谷信彦ほか著）
18.存在論と宙吊りの教育学　ボルノウ教育学再考	単	2013年03月	京都大学学術出版会	哲学者M. ハイデガーの存在論を導きとして、現代ドイツの教育学者O. F. ボルノウの教育理論に孕まれている問題点を検証。さらに、ハイデガー哲学を規定している「知の宙吊り」とでも呼ぶべき方法を精査することで、ボルノウ教育学をはじめ現代の教育／教育学が抱えている、有用性と価値の偏重という問題を克服しうるような、新たな教育／教育学の構想を提示。これにより、教育の根幹に関わる「学ぶこと」「教えること」の両概念の射程を、「役に立つか否か」という尺度を越えた領域にまで敷衍。※学位論文「存在論と『宙吊り』の教育学　ボルノウ教育学の再考を軸に」の加筆・修正版。
19.臨床の知　心理臨床学と教育人間学からの問い	共	2010年11月	創元社	心理臨床や教育の実践を支える「臨床の知」の特徴を、心理臨床学と教育人間学の視座から問い直した論集。担当は第六章「宙吊りにされた『知』の形式　危機に関わる『知』としての『臨床の知』」（単著）pp.117-137。O. F. ボルノウが成熟の機会として論じた「危機」に関わる「知」の特徴を詳しく検証。これにより、「臨床の知」とは実体として与えられている確固たる知識ではなく、危機のような抜き差しならない出来事に襲われる瞬間に、一種の「予感」または「合図」として、生起するものであることを説き明かした。（矢野智司・桑原知子・井谷信彦ほか著）
2 学位論文				
1.存在論と『宙吊り』の教育学　ボルノウ教育学の再考を軸に	単	2011年03月	京都大学に提出、学位（教育学）を授与された、博士論文	哲学者M. ハイデガーの存在論を導きとして、現代ドイツの教育学者O. F. ボルノウの教育理論に孕まれている問題点を検証。さらに、ハイデガー哲学を規定している「知の宙吊り」とでも呼ぶべき方法を精査することで、ボルノウ教育学をはじめ現代の教育／教育学が抱えている、有用性と価値の偏重という問題を克服しうるような、新たな教育／教育学の構想を提示。これにより、教育の根幹に関わる「学ぶこと」「教えること」の両概念の射程を、「役に立つか否か」という尺度を越えた領域にまで敷衍。
3 学術論文				
1.エネルギーの教育思想史序説 ： フロイト、シュタイナー、バタイユを事例として	共	2023年9月	『近代教育フォーラム』32	
2.Theater Games and Stanislavski's System: A Study on the Origins of Viola Spolin's Theatrical Education (Peer-reviewed)	単	2023年6月	Educational Studies in Japan 17	This study investigates the relation between Viola Spolin's methodology of theatrical education and Konstantin Stanislavski's. It elucidates major similarities and differences between Spolin's theater games and Stanislavski's system in more detail than previous research. This investigation belongs to a research project on the origins of Spolin's games, which have been widely adopted in contemporary education. The results of this study thus provide the insight that Stanislavski's system had a more profound influence, whether as a positive or negative model, on Spolin's theory and practice than as illustrated by previous studies. In this way, the present study casts light upon a significant phase of the history of theatrical methods in education and contributes to a better understanding of the characteristics and underlying

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				philosophy of theater games.
3.存在論は教育学にいかなる貢献を果たし得るか ：「ハイデガーと教育学」という問題圏	共	2023年5月	『教育哲学研究』127	
4.童話「かぼちゃのつる」原作と道徳教科書各版の比較検証	単	2023年2月	『学校教育センター紀要』8	道徳教材として広くもちいられている童話「かぼちゃのつる」の原作と道徳教科書掲載の各版を比較検証することをとおして、主人公の言動の背景の不明瞭化や、主人公の死を予感させる結末の回避、「わがまま」という道徳的主題の強調、制裁の理不尽さの緩和、登場人物の言動をめぐる省察の端緒の削減・創出など、この童話を道徳教材として読み解くさいに無視することのできない重要な相違が存在することを証示。
5.ゼロ年代日本の教育言説にみるエネルギー概念の用法と意味【査読有】	単	2022年3月	『学校教育センター紀要』7	ゼロ年代の教育言説に見られる「エネルギー」という概念の調査・解釈をとおして、この概念の用法と意味を明らかにした。このために本論稿は、2000年代に刊行された教育関係の雑誌記事のうち「エネルギー」をタイトルに掲げているものを調査対象として、記事の趣旨とエネルギーとの関連、エネルギーという用語の定義、エネルギー現象についての描写を精査したうえで、従来の教育学の学術論文に見られるエネルギー概念の規定を立脚点として、個々の記事に用いられているこの概念の解釈に取り組んだ。これによって、ゼロ年代の教育言説に見られるエネルギー概念の規定として、（Ⅰ）活動の原動力、（Ⅱ）無規定な活動性、（Ⅲ）心身の充足、（Ⅳ）性格決定の要因という4つの意味内実が照明された。
6.『民主主義と教育』にみるエネルギー概念 ―経験の媒体 ―【査読無】【依頼】	単	2021年9月	『近代教育フォーラム』第30号	『民主主義と教育』においてエネルギー現象経験の媒体として重要な地位を与えられていることを解明。また、デューイとバタイユのエネルギー論に注目することで、プラグマティズムと教育人間学のあいだに新たな対話の地平が拓かれると共に、核エネルギーの利用に関するデューイの思想の検証にとっても重要な着眼点が得られることを指摘。加えて、諸科学の成果に立脚しながら世界各地の儀礼・習俗に蕩尽の事例を求めたバタイユの論考が、常識と科学の対話という課題にとっても大小の示唆を与えてくれることを提起。
7.ヴァイオラ・スポーリンの演劇教育思想にみるエネルギー概念の内実と射程【査読有】	単	2021年6月	『教育学研究』第88巻・第2号	演劇教育家V. スポーリンの思想に見られる「エネルギー」という概念の内実と射程を明らかにした論稿。これにより、従来即興パフォーマンスの実演／思想を立脚点とする教育の実践／理論のなかで多くの場合に無規定なまま使われてきたこの概念の、意味と用法を見定めるための端緒が築かれた。加えて、即興演劇やインプロゲーム等の手法を用いた教育実践の分析・省察にとって、このエネルギーと呼ばれる現象に関する彼女の思想が重要な視点を提供するものであることが明らかにされた。
8.LINEオープンチャットを用いた遠隔授業：データ通信量を抑えた同時双方向型授業の一例【査読有】	単	2021年3月	『教育学研究論集』第16号	2020年度前期に実施された講義科目「教育原理」の授業を例として、LINEオープンチャットを用いた遠隔授業の方法、長所、短所の検証をおこなった実践記録。授業記録と受講者へのアンケート調査をもとに、受講者同士あるいは受講者‐授業者の意見交換を取り入れた同時双方向型の授業システムとしてのオープンチャットの利便性と、チャットへの参加およびデータ通信に関するオープンチャット特有の問題点が明らかにされた。
9.直観の起源としての「語りえないもの」：詩歌と「言語の外」に関するボルノウの思想【査読有】	単	2019年03月	『教育学研究論集』第14号	20世紀ドイツの教育哲学者O. F. ボルノウの言語論、直観論、および情感論を通覧することにより、直観の起源に関する彼の洞察を解明。言語の制約を超えた直観の起源は、言語による認識のなかで共に輪郭を縁取られている、言葉によっては語りえない「背景」としての「言語の外」に、見定められることを明らかにした。これにより、言語・直観・情感の関係に改めて光が投げかけられるとともに、我々人間の認識と「語りえないもの」との関係が新たに捉えなおされた。
10.インプロゲームをとおした「人見知り」をめぐる意識変容：受講者の学習記録か	単	2019年03月	『学ぶと教えるの現象学研究』vol.18	インプロゲームをとおした学びの特徴に関する探索の一環として、インプロゲームを取り入れた大学の授業の学習記録に基づいて、特に受講者の「人見知り」をめぐる意識変容の実態を分析。ゲームの楽しさに支えられた人見知りの克服や、他者への怖れに向きあうこ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
ら読み解く「自分なりの」学びの生成【査読無】				とをとおした成長、怖れを抱えながらも他者に関わろうとする姿勢の涵養や、他者の怖れへの共感と自己の怖れの自覚など、個々の受講者の固有の学びの特徴を解明することで、インプロゲームをとおした学びの個別性および多様性を明らかにした。
11.Toward the Spiral of Questioning : A Manner of Thinking and Writing for Philosophers of Education after 3.11【査読無】【依頼】	単	2016年11月	English E-Journal of the Philosophy of Education. vol. 1	O. F. ボルノウとM. ハイデガーによる著作を導きとして、東日本大震災によって深刻な被害を蒙り、日常生活を支える様々な境界と根拠が失われた現代社会にあって、教育哲学者が取りうる語りの作法を提唱。希望、被護性、技術、放下などをめぐる両者の議論が、重大な矛盾や自家撞着を孕んでいることを明らかにしたうえで、唯一絶対の「答え」ではなく終わりなき「問い」を喚起するような、哲学者に固有の語りの特徴と意義を提示。※井谷信彦（2013）「問いの螺旋へ　教育哲学者の語りの作法」『教育哲学研究』第108号の加筆・修正・英訳版。pp.1-24
12.光を教育哲学するプラトン、コメニウスからフィンク、パトチカへ【査読無】	共	2016年05月	『教育哲学研究』第113号	プラトンやコメニウスによる「光」をテーマとする教育思想と、フィンクやパトチカによるその受容を検証することで、「光」をテーマとする教育哲学の可能性を探求。指定討論者として、プラトンとハイデガーをつなぐ「光の教育哲学」の特徴が、真理を伝えようとする教師の受難にあることを指摘（単著）pp.163-164。コメニウス、パトチカ、フィンクらの思想における教師の受難と情熱（passion）をめぐる論点を提示。※同題のラウンドテーブルの報告論文。（田端健人、相馬伸一、武内大、井谷信彦）
13.タクトの啓発と意味生成の螺旋　ヴァン＝マーネンの省察理論の循環構造【査読無】	単	2015年03月	『学ぶと教えるの現象学研究』vol. 16	ヴァン＝マーネンの省察理論に見られる循環構造に関する「読者からの疑問」を出発点として、教師の即興の技量としてのタクトの啓発に関わる、省察の構造を探索。省察の本質に関わる要素として、教育事象への深い関心や、生の複雑性、教師の思慮深さ、「ありうること」への開放、間主観性に基づく審理などの特徴を解明。これにより、「意味への問い」と「意味の発見」を往還しながら問い深められてゆく、螺旋型に深まりゆく意味生成のプロセスとしての省察の構造を明らかにした。pp.27-40
14.風景芸術と教育の「再生」　建てること、住まうこと、制作すること【査読無】【依頼】	単	2015年03月	『理想』694号	美術家・田窪恭治氏による図画工作の授業に見られた、児童や講師らによる体験の特徴を、存在論の視座に基づいて説き明かした。主題としたのは、NHKにより企画・実施された宇和津小学校の授業実践「ぼくらの学校　ぼくらがつくる!?」と、なぎさ小学校の授業実践「HATの未来をかたちにしよう」。これらの授業風景の分析と講師へのインタビューなどにもとづいて、都市や、学校、人間、教育の「再生」に関わる、この実践の意義を明らかにした。pp.30-41
15.問いの螺旋へ　教育哲学者の語りの作法【査読有】【依頼】	単	2013年11月	『教育哲学研究』第108号	O. F. ボルノウとM. ハイデガーによる著作を導きとして、東日本大震災によって深刻な被害を蒙り、日常生活を支える様々な境界と根拠が失われた現代社会にあって、教育哲学者が取りうる語りの作法を提唱。希望、被護性、技術、放下などをめぐる両者の議論が、重大な矛盾や自家撞着を孕んでいることを明らかにしたうえで、唯一絶対の「答え」ではなく終わりなき「問い」を喚起するような、哲学者に固有の語りの特徴と意義を提示。pp.1-20
16.タクトの啓発と「ありうること」への開放　ヴァン=マーネンの省察理論と意味生成の沃野【査読有】	単	2013年03月	『教育学研究論集』第8号	教育者のタクトに関するM. ヴァン＝マーネンの理論を導きとして、「ありうること」への開放という契機に着眼することで、事例の省察を通したタクトの啓発という出来事の内実を解明。個々の実践に関する真摯な省察を通して獲得される、「ありうる」意味や「ありうる」本質への洞察、「ありうる」価値や「ありうる」規範への感性が、教育者の即座の判断を支えるタクトの基調にあることを明らかにした。pp.1-8
17.O.F.ボルノウ『練習の精神』とメビウスの輪【査読有】	単	2012年03月	『教育学研究論集』第7号	現代ドイツの教育学者O. F. ボルノウの教育理論の射程と問題点を再検証するための探索の一環をなす論稿。ボルノウの著作『練習の精神』を読み解くことで、機能主義に基づく視点と機能主義を越えた視点を往還する、彼の議論に特有の「ねじれ」のダイナミズムを解明。この「ねじれ」が練習という営みの両義性を浮かびあがらせるものであると同時に、練習をめぐる問いの渦へと読者を巻きこんでゆくものであることを明らかにした。pp.7-19
18.主体性の超克は現か夢か　「不眠症」の	共	2010年09月	『近代教育フォーラム』第19号	M. ハイデガーの存在論、G. バタイユの超越論、E. レヴィナスの他者論を導きとして、「主体性の超克」という課題に孕まれている困

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
時代の教育思想【査読無】				難と、この困難を乗り越えるための指針を提示。担当は、コロキウムの企画趣旨を述べた第1節、ハイデガー哲学にみられる「知の宙吊り」という方法論の特徴を明らかにした第2節pp.173-178、コロキウム当時の討議の概要を記した第5節pp.183-184。※同題のコロキウムの報告論文。（井谷信彦、平石晃樹、宮崎康子）
19.The Aporia of the Other in Curriculum Construction: A Response to Anna Strhan (revised)【査読無】	単	2010年03月	『臨床教育人間学』第10号	教育人間学・臨床教育学の視点から、教育学者A. シュトラーンの論稿「What is Religious Education?」の重要性と問題点を解明。宗教教育の理論・実践の両方に目を向けながら、E. レヴィナスの説く「他者」の問題を宗教教育のカリキュラムに組み込むことの困難や、シュトラーンの理論・実践が再び単なる知識に回収されてしまう危険性、およびこの危険性を克服するための方策を提示。※同題の研究発表の報告論文。pp.139-144
20.存在論に立脚した教育理論の展開　「有用化としての教育」に対する問いかけを軸に【査読有】	単	2009年03月	『京都大学大学院教育学研究科紀要』第55号	教育学とM. ハイデガー存在論との関係を精査することにより、存在論に立脚した従来の教育理論に共通の特徴と問題点を検証。これにより、存在論に立脚した従来の教育理論は、「有用性の尺度」や「価値の思想」に囚われた伝統的な教育学の原理を克服することを、共通の課題として掲げていることが示された。さらにまた、この有用性や価値の桎梏を克服しようとする探求も、結局は、有用性の尺度と価値の思想に絡め取られてしまっているという問題点も明らかにされた。pp.41-59
21.「住まうこと」と世界の奥行き　O. F. ボルノウ『新しい庇護性』再考【査読有】	単	2008年11月	『教育哲学研究』第98号	現代ドイツの教育学者O. F. ボルノウの教育理論の射程と問題点を再検証するための探索の一環をなす論稿。我々人間の生と教育の基盤をなしている「被護性」の意義を説いたボルノウの理論を、彼が援用しているM. ハイデガーの論稿を導きとして検証。これにより、ボルノウの教育理論は人間の生を「役に立つか否か」という尺度に還元してしまうものであることが明らかにされ、また、これに対して有用性を越えた世界と人間存在の在り方を問うことの重要性が示された。pp.39-57
22.プレゼントが開く未知なる教育　児童文学や絵本を事例として【査読無】	共	2008年09月	『近代教育フォーラム』第17号	交換に基づく人間関係と贈与に基づく人間関係とを対比しながら、単なる交換関係に回収することのできない、贈与関係としての人間の生と教育の局面を解明。担当は、コロキウムの趣旨を述べた第1節pp.167-168、「形ばかりの告示」に関するM. ハイデガーの議論を導きとして宮澤賢治の「水仙月の四日」を読み解いた第6節、指定討論者への応答を記した第7節、議論全体に基づく結論を述べた第8節pp.173-177。※同題のコロキウムの報告論文。（井谷信彦、宮崎康子、石崎達也、辻敦子）
23. 'Beyond the self' as a goal of education: Heidegger's philosophy and education in the West and in Japan (revised)【査読無】	単	2008年03月	『臨床教育人間学』第9号	M. ハイデガーの存在論に基づく従来の教育理論を検証することで、P. スタンディッシュの唱える「自己を越えて」という理念が、これらに共通の目標として掲げられていることを明らかにした。これにより、存在論に立脚した従来の教育理論を相互に結びあわせるキーワードが示されると同時に、「自己を越えて」という理念を安易な理想・目標として掲げることの危険性が指摘された。※同題の研究発表の報告論文。pp.70-75
24.Comments: How to Read "Beyond the Self"？(revised)【査読無】	単	2007年03月	『臨床教育人間学』第8号	P. スタンディッシュの著作『Beyond the Self』に関する論評。教育思想の歴史のなかにおける本書の位置、本書の説く「存在への開かれ」とはいかなる出来事なのか、我々はいかにして「存在への開かれ」を評価しうるのか、思索の方法の転換を求める本書をいかに読むべきか、などの観点を提示。これにより、「存在への開かれ」をめぐる思索の意義と困難を解明。pp.119-122
25.無気味なるものをめぐる思索のスタイル　O. F. ボルノウ『新しい庇護性』を読み直す【査読無】	単	2007年03月	『臨床教育人間学』第8号	現代ドイツの教育学者O. F. ボルノウの教育理論の射程と問題点を再検証するための探索の一環をなす論稿。ボルノウの教育理論を、単なる客観的な観察や論理的な証明といった「知」の枠組みから解き放つため、彼の著書『新しい庇護性』の序論を精査。これにより、ボルノウの教育理論について、議論の内容よりも作法に目を向けることによって、これまでとは異なる地平が開かれることが解明された。pp.45-60
26.受苦的な経験における生の可能性　O.	単	2007年03月	『京都大学大学院教育学研究科紀	現代ドイツの教育学者O. F. ボルノウの教育理論の射程と問題点を再検証するための探索の一環をなす論稿。「危機」を人間の成熟の

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
F. ボルノウ「非連続的な生の形式」再考【査読有】			要』第53号	機会として捉えたボルノウの論稿を、現存在の「本来性」に関するM. ハイデガーの思想に照らして読み直すことで、危機と成熟をめぐる探索にふさわしい方法を検証。これにより、危機の役割に関するボルノウの思想を、客観的な観察や論理的な証明といった「知」の枠組みから解き放ち、これらとは異なる観点から読み解くための方途が示唆された。pp.32-44
27.希望、この無気味なるもの　O. F. ボルノウ「希望の哲学」再考【査読有】	単	2006年11月	『教育哲学研究』第94 号	現代ドイツの教育学者O. F. ボルノウの教育理論の射程と問題点を再検証するための探索の一環をなす論稿。「希望」の重要性を主張したボルノウの論稿を、M. ハイデガーの不安の分析論と対比することによって、「希望することを学ぶ」とはいかなることかを検証。これにより、ボルノウ自身が詳しく論じていない希望と不安との密接な連関が明らかにされ、「希望することを学ぶ」ことの両義性を孕んだ特徴が解明された。pp.1-20
28.教育との連関における気分の哲学的「発見」　M. ハイデガー『存在と時間』以前のパトス解釈【査読有】	単	2005年05月	『教育哲学研究』第91号	現代ドイツの教育学者O. F. ボルノウの教育理論の射程と問題点を再検証するための探索の一環をなす論稿。「パトス」（pathos）概念に関するM. ハイデガーの思想を導きとして、教育との関連で情念・受苦・病理などを扱うさいの困難を明らかにするとともに、この困難を乗り越えるための課題を提起。これにより、広く「パトス」に関わる教育学は、客観性や確実性を重要視する従来の「知」の在り方を問い直し、これとは異なる「知」の在り方を模索しなければならないことが示された。pp.47-65
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.プラグマティズムの思想史	共	2020年09月12日～18日	教育思想史学会第30回大会シンポジウム	共同体形成という観点からプラグマティズムの射程と限界を明らかにしようとする生澤繁樹会員と、シカゴのハルハウスに集った人々の活動・思想からプラグマティズムの思想史を描き直そうとする古屋恵太会員の報告を受けて、指定討論者として、即興演劇の手法を用いた教育実践を行っているL. ホルツマンやその源流にあたるV. スポーリン（ハルハウスの施設勤務者）の思想を紹介しながら、「目的‐手段の二項対立をめぐる問い直しの系譜」を主題とする話題提供と討議を行った。
２．学会発表				
1.ボールドウィン『哲学・心理学辞典』にみるエネルギー概念	単	2023年8月	日本教育学会第82回大会	
2.存在論は教育学にいかなる貢献を果たし得るか：「ハイデガーと教育学」という問題圏	共	2022年10月	教育哲学会第65回大会	
3.エネルギーの教育思想史序説：フロイト、シュタイナー、バタイユを事例として	共	2022年9月	教育思想史学会 第32回大会	
4.Viola Spolin の演劇教育思想にみるエネルギー概念の特徴	単	2020年08月24日～28日	日本教育学会第79回大会	二十世紀アメリカの演劇教育家ヴァイオラ・スポーリンの思想にみられるエネルギー（energy）という概念の特徴を解明。スポーリンのエネルギー概念が、課題の解決、インスピレーション、演技／遊び、怖れと抵抗、指導者の診断、スポンタネイティ、個人の自由など、演劇教育をめぐる彼女の思想の主要概念と密接な関連をもつ重要な概念の1つであり、即興パフォーマンスの実演／思想を立脚点とする今日の教育の実践／理論にとっても重要な示唆を与えるものであることを明らかにした。
5.O. F. Bollnowの思想にみる「言語の外」をめぐる知の特徴	単	2017年10月	教育哲学会第60回大会一般研究発表	現代ドイツの教育学者O. F. ボルノウの教育理論の射程と問題点を再検証するための探索の一環をなす論稿。ボルノウの言語論、情感論、自然論などを読み解くことで、彼の思索の初期から晩年にまでわたる「言語の外」をめぐる知に関する議論の連関を検証。ボルノウの思想に見られる、直観以前の知の問題、知の無規定性と規定性の問題、「言語の外」に関わる予感の問題を精査することで、「言

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
6.光を教育哲学するプラトン、コメニウスからフィンク、パトチカへ	共	2015年10月	教育哲学会第58回大会ラウンドテーブル	葉の外」をめぐる知に関する議論の全体像や問題点を解明。プラトンやコメニウスによる「光」をテーマとする教育思想と、フィンクやパトチカによるその受容を検証することで、「光」をテーマとする教育哲学の可能性を探求。指定討論者として、プラトンとハイデガーをつなぐ「光の教育哲学」の特徴が、真理を伝えようとする教師の受難にあることを指摘。コメニウス、パトチカ、フィンクらの思想における教師の受難と情熱（passion）をめぐる論点を提示。（田端健人、相馬伸一、武内大、井谷信彦）
7.主体性の超克は現か夢か　「不眠症」の時代の教育思想	共	2009年9月	教育思想史学会第19回大会コロキウム	M．ハイデガーの存在論、G．バタイユの超越論、E．レヴィナスの他者論を導きとして、「主体性の超克」という課題に孕まれている困難と、この困難を乗り越えるための指針を提示。担当は第一報告「ハイデガー存在論と『知の宙吊り』という方法」。「存在の真理」に関わるハイデガーの諸論稿を紐解くことで、有用性や価値に還元することのできない事柄を、素朴な目標やこれを達成するための手段に還元することなく学び知り／教え伝える、知識／伝達の在り方を提示。（井谷信彦、宮崎康子、平石晃樹）
8.The Aporia of the Other in Curriculum Construction: A Response to Anna Strhan	単	2009年3月	The 2nd International Colloquium between the Institute of Education, University of London, and the Graduate School of Education, Kyoto University	教育人間学・臨床教育学の視点から、教育学者A．シュトラーンの論稿「What is Religious Education?」の重要性と問題点を解明。宗教教育の理論・実践の両方に目を向けながら、E．レヴィナスの説く「他者」の問題を宗教教育のカリキュラムに組み込むことの困難や、シュトラーンの理論・実践が再び単なる知識に回収されてしまう危険性、およびこの危険性を克服するための方策を提示。
9.‘Beyond the Self’ as a Goal of Education: Heidegger’s Philosophy and Education in the West and in Japan.	単	2008年3月	International Colloquium between the Institute of Education, University of London, and the Graduate School of Education, Kyoto University	M．ハイデガーの存在論に基づく従来の教育理論を検証することで、P．スタンディッシュの唱える「自己を越えて」という理念が、これらに共通の目標として掲げられていることを明らかにした。これにより、存在論に立脚した従来の教育理論を相互に結びあわせるキーワードが示されると同時に、「自己を越えて」という理念を安易な理想・目標として掲げることの危険性が指摘された。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.即興パフォーマンスの手法を用いた「協働による創造」としての学び：個々の受講者が「自分なりの」学びを深めるリフレクションをとおして	単	2020年2月	研究成果の社会還元促進に関する発表会	学校、企業、自治体などにおける、児童生徒、社員、住民らによる「協働による創造」としての学びを推進する方法として、即興演劇の役者のトレーニング手法などとして知られるインプロゲームと、参加者が「自分なりの」学びを見つけて深める方法としてリフレクションの活用価値を、①自己の創造、②関係の創造、③作品の創造という三つの視点から明らかにした。
2.詩歌と「言語の外」をめぐるボルノウの思想　パトロジカルな知としての予感	単	2018年07月	「単元を貫く言語活動」研究会	現代ドイツの教育学者O．F．ボルノウの教育理論の射程と問題点を再検証するための探索の一環をなす論稿。ボルノウの言語論、情感論、自然論などを通覧することで、詩歌の働きに関する彼の思想を検証。これにより、言語のほかに認識の通路を認めないボルノウの思想が、なおも「言語の外」へと向かおうとするときの議論の緊張と錯綜を解明。言語をもちいた芸術としての詩歌が、「言語の外」に関わる「知」の沃野を拓くという洞察に、ボルノウの思想の特徴があることを明らかにした。
3.問いの螺旋へ　教育	単	2013年10月	教育哲学会第56回	O．F．ボルノウとM．ハイデガーによる著作を導きとして、東日本大

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
哲学者の語りの作法			大会ラウンドテーブル	震災によって深刻な被害を蒙り、日常生活を支える様々な境界と根拠が失われた現代社会にあって、教育哲学者が取りうる語りの作法を概説。希望、被護性、技術、放下などをめぐる両者の議論が、重大な矛盾や自家撞着を孕んでいることを明らかにしたうえで、唯一絶対の「答え」ではなく終わりなき「問い」を喚起するような、哲学者に固有の語りの特徴と意義を提示。※井谷信彦（2013）「問いの螺旋へ　教育哲学者の語りの作法」『教育哲学研究』第108号にもとづく話題提供。
６．研究費の取得状況				
1.即興演劇の思想に見られる「エネルギー」概念を指針とする教育者の省察手法の開発	単	2020年04月～2023年3月	日本学術振興会	本研究の目的は、教育者の即興の技量（tact：機知・機転）の育成のために取り組まれる省察（reflection：体験の振り返り）の手法開発の一環として、即興演劇の理論・実演において重視される「エネルギー」（energy）の概念に注目することによって、即興という現象の特質にかなった、体験の省察を深めるために有効な指針を開発することにある。
2.教育における宗教性に関する思想史的・人間学的研究　「京都学派」教育哲学を中心に	共	2012年4月～2015年3月	日本学術振興会	京都学派の哲学者や、これに関わる思想家、さらにこの影響を受けた教育学者などの理論を精査。宗教性や超越性といった契機が、人間形成にとって有している意義を解明。担当は、M. ハイデガー、O. F. ボルノウ、M. ヴァン＝マーネンらの理論にみられる、世界の奥行きをめぐる思想の探索。ヴァン＝マーネンの省察理論に見られる意味生成の沃野や、絶望のなかの希望をめぐるハイデガーとボルノウの語りの作法、および小学校の図工の授業に見られる「再生」というモチーフの特徴を解明。（研究分担者）
3.存在論に立脚した教育学の可能性と限界：ボルノウ教育学の再考を軸に	単	2008年4月～2009年3月	日本学術振興会	

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2021年4月～現在	オープンダイアローグ・カフェ連続講座　講師
2.2020年03月	教育×即興Meet Up! 主催・講師
3.2020年～現在	電話 de いんぷろ
4.2020年～2022年	The Impro Friday（講読会）
5.2018年11月	リフレクション祭り in 東京　講師
6.2018年09月	高槻北高校「教志体験」講義「playfulな学びの舞台をつくる」講師
7.2018年06月	できそうにもないことワークショップ vol. 6「造形遊び」主催
8.2018年4月～2022年	教育哲学会次世代育成企画委員
9.2017年11月	即興型学習研究会 2017年度第4回　ゲスト講師
10.2017年10月	教育哲学会第60回大会 ランチタイムセッション 話題提供
11.2017年08月	夏休み おためし版「即興×リフレクション」体験会2017　主催・講師
12.2017年04月	できそうにもないことワークショップvol.5「絵本遊び」主催
13.2017年～現在	教育×即興×省察ワークショップ　主催・講師
14.2017年～2020年	教育哲学会機関紙編集委員会　編集幹事
15.2016年12月	できそうにもないことワークショップvol.4「即興ダンス」主催
16.2016年10月	即興型学習研究会 2016年度第4回　ゲスト講師
17.2016年08月	できそうにもないことワークショップvol.3「即興演劇」主催
18.2016年03月	できそうにもないことワークショップvol.2「沈黙」主催
19.2015年12月～	できそうにもないことワークショップvol. 1「即興音楽」主催・講師
20.2015年10月	教育哲学会第58回大会 一般研究発表　司会
21.2015年09月	アクティブ・ラーニングだいけんきゅう！　コーディネーター
22.2015年03月	ダイバーシティ・ダイアローグ　教育×きょういく！ vol.1　ゲスト講師
23.2015年01月	遊びと学びのパラドックスを遊ぶ　講師
24.2015年～2018年	教育思想史学会　事務局長補佐
25.2013年10月	教育哲学会第56回大会 一般研究発表　司会
26.2013年～2014年	大人の楽々コミュニケーション講座　主催・講師
27.2012年11月	関西教育学会第64回大会 自由研究発表　司会
28.2012年08月	西宮市立総合教育センター主催 10年次教員研修　講師
29.2011年11月～2012年11月	日本乳幼児教育学会第22回大会準備委員